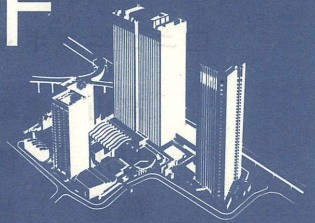


# THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH WEEKLY REPORT



## 東京新南ロータリークラブ週報

August 7, 1987 No. 41

今年度のターゲット (チャールズ C. ケラー)

ロータリアン--奉仕に結束--平和に献身

ROTARIANS--UNITED IN SERVICE--DEDICATED TO PEACE

### ○ 本日の予定

昭和62年 8月 7日 (第43回)

卓話 イニシエーションスピーチ

『旅の裏方』/石川 久夫 君



### 先週報告

昭和62年 7月31日 (第42回)

◎卓話:『黑板よもやま話』(イニシエーションスピーチ)/吉田 用親君

司会:田島 一郎 会長

♪ロータリーソング:我等の生業

ソングリーダー:宮本正祥 君

ニコニコBOX 紹介:鈴木重徳 君

来客紹介:三溝弘悦 君

|      |     |       |    |               |    |    |
|------|-----|-------|----|---------------|----|----|
| 出席状況 | 会 員 | 39 名中 | 出席 | 31名           | 欠席 | 8名 |
|      | 来 客 | 9 名   |    | (都内 8名 地方 1名) |    |    |
|      | ゲスト | 2 名   |    |               |    |    |

○ 会長報告 新入会員紹介 Mr. Edgar Anthony Zaloom (エドガー アンソニー ザルム)  
スキャデン・アプス (法律事務所)/弁護士(商事)

○ 委員会報告 社会奉仕委員会 8月 7日 (金) 6時PM~於:ジュリアン

○ 幹事報告 それぞれの委員会を開くようにして下さい

### □ R I 情報抄録より (1987年 7月号)

人生において報われること

「他人を心から助けようとする行いは、必ず自分自身をも助けることになる。これは人生の最も美しい報酬の一つである」。

--ラルフ・ウォルドー・エマーソン

18世紀の米国の詩人、エッセイスト



□ニコニコボックス (S62/7/31 敬称略・順不同)

高山 成雄 (東京南RC会長) 前回出席のお礼として ※下記参照

村川 優 財団奨学生の試験に合格した黒川あゆみさんをお迎えしたので  
渡邊 治 昨年まで一緒に働いた黒川デュッセルドルフ総領事のお嬢さんが  
この度RC留学生のテストに合格されました 大変嬉しいのでボ  
ックスに入れさせていただきます

大日方 真 わが母校、上田高等学校が甲子園出場を果たしましたので 30年  
ぶり2回目の出場です

四分一 勝 先日、つたないスピーチを聞いて頂きましたので 佐藤定宏さん  
後日はありがとうございます

佐藤 定宏 四分一さんと宮本さんに拙宅に遊びに来て戴き楽しい一時を過す  
ことが出来ました

吉田 用親 河原さん、青野さんと「月下美人」を初めて、めでさしてもらい  
ました 本日つたない卓話で耳を汚さしてもらいます

河原 勢自 青野さん、吉田さんと名花「月下美人」をめでながら銘酒を楽し  
むことができました 有難う存じました

入沢 頼二 2回続けて出席できず申し訳ありません 佐藤さん写真ありが  
うございました

宮本 正祥 2回続けて休みました すみません

本日の合計 10件 45,000 円

それぞれ、多額のご寄付を頂きました。有り難うございます。

◎Visitors (順不同・敬称略)

|         |        |         |       |
|---------|--------|---------|-------|
| 熊本八代南RC | 坂本 盛幸  | 東京 RC   | 秋山 清  |
| 東京-新宿RC | 佐藤 菊生  | 東京-羽田RC | 岩崎 静男 |
| 東京-芝RC  | 室伏 清   | 柿田 潔    |       |
| 東京-南RC  | 小見山 了一 | 田辺 政美   | 立石 信義 |

○Guests 黒川あゆみ (村川君ゲスト)  
村上 満 (川鍋君 " )

□幹事より

- ① 先々週、当クラブ例会にお越し戴きました東京南RC会長の高山成雄氏がニコニコボックスを郵送で送って下さいました。心暖まる励ましのお便りが添えられてありましたのでご紹介致します。

東京新南ロータリークラブ会長 田島 一郎 殿 S62/7/27  
東京南RC会長 高山 成雄

拝 啓 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
先日は貴クラブの例会に出席させていただき有難うございました。  
初代田辺会長、田島会長のリーダーシップで着々と発展されている状況を拝見さ  
せていただきました。  
四分一勝さんの「すべての出合いは飲食から」という面白い話しを聞いて新南ク  
ラブの若い人のあふれるような活力を感じました。  
ひとえに田辺前会長、田島会長の卓絶した指導力の賜物と感服致しております。  
ますますのご活躍と新南クラブのご発展をお祈り申し上げます。 敬 具  
P.S. ニコニコボックスへの寄附を忘れてしまいましたので些少  
ですが同封いたしました。



御紹介に預りました吉田でございます。私の職業分類は、学校用品販売ということになっておりますが、学校用品というより、学校用施設、又は備品である「黒板」の製造販売を主たる業としています。

「黒板」と言いますと、一般的にはやや古くさく、何となく郷愁的なイメージを持たれ、学校の教室が脳裡に浮かぶと思います。確かに黒板の最大の需要先は学校の教室ですが、全く逆に学校の教室にもし黒板がなかったら....と考えてみますと何か非常に大切なものが欠けた、教室にならない教室がイメージされるのではないかと思います。

最近オープンスクール、又はオープン教室と称しまして、壁や間仕切、机をとっばらった教室、教育方法が一部で広まりつつありますが、そこでも黒板はどうやら必要だという認識になっているようです。確かに黒板は教育にとってなくてはならない用具ですが、それは黒板の来歴にも表われているということをお話したいと思います。

数学及び数学史として有名な小倉金之助先生の随筆の中に「黒板はどこから来たのか」という一文がありまして、この中に黒板の来歴が書かれています。これによりますと、

- ① 日本に黒板が持ち込まれたのは、明治維新の時であり、アメリカからである。学制の施行に伴ない、日本の教育は急速に広まると共に日本の歴史は大きな変換を遂げた。
- ② アメリカに黒板が持ち込まれたのはフランスからやってきた軍事工学の教師によるものであり、米英戦争(1812 年)の直後である。アメリカはこの後、産業革命と西漸運動が急速に進んだ。
- ③ ヨーロッパで黒板が生れたのは、フランス革命終了間際の1794年頃であり、エコールポリテクニクの開校者であり、画法幾何学の創設者である、ガスパルドモンジュによるものである。ヨーロッパの歴史はフランス大革命後、大きな変換をとげるとあります。つまり、日本に於ても、またアメリカ、ヨーロッパに於ても新しい世代への転換のために、新しい学問の普及の必要性から黒板は登場し、そして大きな役割を果たしながら普及していきました。

この様に黒板の由来から見ても、教育にとって黒板の重要性は大きいのですが、率直に申しまして、明治5年に日本に黒板が渡来して以来、黒板はその本来持っている価値にしては開発がほとんどなされず、ほぼ誕生した時の姿のまま、戦後に至りました。戦後の黒板の歴史といったものについては、別の機会がありましたら、ということにさせて頂きたいと思いますが、黒板やホワイトボード、電子黒板を見かけましたら、このルーツはフランス革命であり、米英戦争であり、明治維新であるということをお思い出しただければ、誠に幸甚であります。御静聴ありがとうございました。



## 国際化に思う／渡邊 治君記

このところ国際化論議が一段とかまびすしくなってきた。内外での論議の中心は、従来同様経済的側面にある。曰く、「わが国工業品規格の国際化」、「型式審査・認証手続の簡素化」、「東証会員制の開放」、「国際入札の門戸開放」、「流通経路の単純化」等々。

しかし最近の論議は経済的側面を超えて除々に、社会的、文化的側面にまで発展し、渉外の論調の外には、「日本固有の文字がけしからん」というような極論まで飛び出す始末である。

もともと経済摩擦、貿易摩擦の解決は、経済面のアプロッチだけでは不十分で、どうしても文化、社会、歴史といったいわゆる「パーセプション・ギャップ」の問題にまで踏み込まなければならない性格のものである。この意味で、最近の論議が上記のような広がりを持ってきたことは大いに歓迎すべきと云えよう。

しかし長年欧州で暮した私には、内外の論議がどうも片手落に思えて仕方ない。それは国際化の主体が常に「わが国」であり、「日本人」であるべきだとする主張であるからだ。

経済的側面における国際化については、確かにわが国の側にその必要性が痛感され、これが実行は現下の急務であることは論を俟たない。しかし同時に、パーセプション・ギャップの問題については、欧米の側にも国際化の必要性のあることが指摘されて然るべきである。自己の歴史が世界の歴史であり、自己の文化が世界の文化であった昨日までの欧米が、異なった他地域の文化に対しなんらの興味も関心も示さなかったことは致し方ないが、これからはそうはいかない。欧米の文化以外にアジアにはアジアの文化があり、それは欧米の文化的尺度では計り切れない価値基準であるとの認識が十分にあれば、昨今の国際化論議はいま少し変った展開もみせたことだろう。この意味で、欧米の側にも文化意識の面で国際化の必要のあることを、今こそわれわれ日本人は声を大にして主張すべきである。

以上

## ○ 次週の予定

昭和62年 8月14日（第44回）

卓話（インシェーションスピーチ）『グーテンベルグ物語』

山下 忠治君／銚技報堂 代表取締役社長

□他クラブ例会臨時変更 新橋RC 8月11日（火）18:00 ～ 20:00／銀座第一ホテル

| 受 付 | 来客紹介 |    | 会 計 |    | 日 付  | ニコニコボックス |     | 会 場   |     |
|-----|------|----|-----|----|------|----------|-----|-------|-----|
| 岩上  | 田中   | 山川 | 三溝  | 二宮 | 8/14 | 平井       | 飛島  | 保科    | 吉田  |
| 河原  | 宮本   | 福田 | 四分一 | 小西 | 8/21 | 武下       | 保森  | 平井    | 石川  |
| 二宮  | 入沢   | 三溝 | 青野  | 山川 | 8/28 | 丸山       | 石川  | 丸山    | 大日方 |
| 田中  | 三溝   | 小西 | 河原  | 福田 | 9/ 4 | 佐藤（幸）    | 鈴木  | 佐藤（幸） | 武下  |
| 中野  | 宮本   | 青野 | 山本  | 入沢 | 9/11 | 吉田       | 大日方 | 鈴木    | 飛島  |
|     |      |    |     |    |      |          |     | 山本    | 保森  |
|     |      |    |     |    |      |          |     | 以上全員で |     |

会長／田島一郎

副会長／佐藤定宏

幹事／川鍋達朗

会報／斉藤茂之

## 東京新南ロータリークラブ

事務所：〒107 東京港区赤坂 2-22-19南部坂アネックス 201 号

電 話：03-505-5976 （ファクシミリは同番で切り替え）